

デッバー発達判定法

DENVER II

住吉智子

心理社会的発達の評価方法

検 査 法	適応年齢	特徴
遠城寺式乳幼児分析的発達検査法	0-4歳	「運動」「社会性」「言語」の領域で項目別に測定し、グラフ化することで発達障害を分析する。
新型K式発達検査	0-成人	「姿勢・運動」、「認知・適応」、「言語・社会」の3領域において、子どもの到達している発達年齢と発達指数を算出する。
津守式乳幼児精神発達質問紙	0-3歳 3-7歳	「運動」「探索」「社会」「生活習慣」「言語」の5領域による質問紙を用いる。
MMCベビーテスト	2歳-30か月	乳幼児の精神発達の現状を測定し、診断するものである。
田中ビネー知能検査V	2歳-成人	2-13歳は従来通り精神年齢(MA)および知能指数(IQ)を算出し、14歳以上は偏差値のうしすう(DIQ)を用いる。
WISC-IV	5歳-16歳	WISC-Ⅲに改訂を加えた検査法で、全体的な認知能力を表す全検査IQと、4つの指標得点を算出する。

DENVER II 改定まで

- ◎ 1967年に出版されたDenver Developmental Screening Test の改訂版が、DENVER II である
- ◎ 初版は、症状が明確には顕在化されていないが、発達に問題をもつ可能性のある子どもを直感的な疑いから客観的判断に発展させ、早期に適切な対応を行うことを目的として開発された。
- ◎ 世界54か国で翻訳され、採用されており、15か国で標準化され普及している。
- ◎ 時代の変化から、こどもの発達状況も大きく変化しているため改定され、DENVER II として出版された。



DENVER II は

デンバー式発達スクリーニング検査(DDST)を日本の子供用に標準化したスクリーニング法である。

4領域(計125項目)について、25,50,75,90%の到達レベルで明記されている。評価は、正常、疑い、判定不能で示される。

- ◎ 知的能力や発達障害を診断するものではないことに注意
- ◎ あくまでも発達に問題がある子どもを早期発見し、的確に対応するためのもの
- ◎ 「検査」「試験」「診断」の言葉はできるかぎり排除されている

DENVER II

原著：W.K.Frankenburg, M.D.
社団法人日本小児保健協会

©社団法人日本小児保健協会, 2011 ©W. K. Frankenburg and J.B. Dodds, 1969, 1989, 1990 ©W. K. Frankenburg, 1978



観察項目は4分野

◎ 個人—社会

- ◎ 個人の自立と他の人々と協調できる能力

◎ 微細運動—適応

- ◎ 目と手の協調運動や小さい物の取扱い

◎ 言語

- ◎ 言語を聞き、理解し、使用する能力

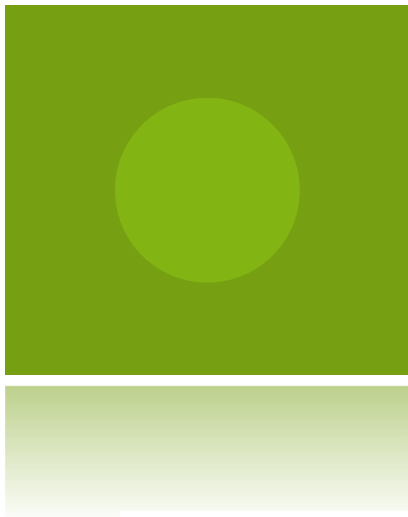
◎ 粗大運動

- ◎ すわったり、歩いたり、跳んだり、体全体の大きい筋肉運動

子どもたちの年月齢と
比較して判定する。

DENVER II 長所

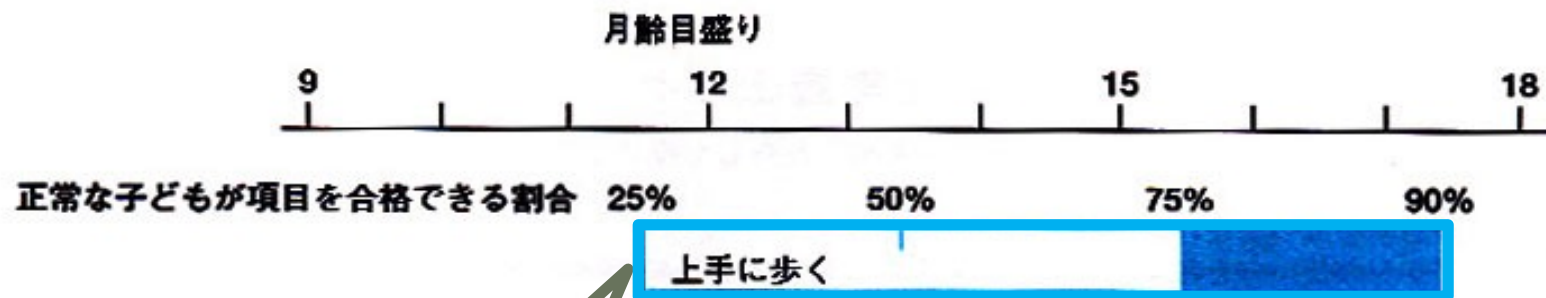
- ◎ 再標準化が最近行われたため、**再現性が良好**で、信頼性が高い。
- ◎ **誕生から6歳までの年齢**をカバーできる判定法である。
- ◎ さらに詳しい診断、評価、指導を要する子どもたちを、敏感に、特異的に判定できる。
- ◎ **容易に修得**でき、**比較的短時間**で実施できる。
- ◎ 子ども、両親、判定者も全員が楽しく実施できる。



DENVER II 限界

- ◎ 聴覚、視覚の問題をスクリーニングはできない。
- ◎ 学童期の子どもを対象にしてはいないため読字障害、学習障害は判定できない。
- ◎ 情緒障害を判定できない。
- ◎ 知能、言語能力検査、運動能力検査などの部分的機能の判定は意図されていない。

各項目の行動達成率と年月齢



「上手に歩く」は、正常な子どもの25%が11か月半くらいにできることを示す

「上手に歩く」は、正常な子どもの75%が15か月半くらいにできることを示す

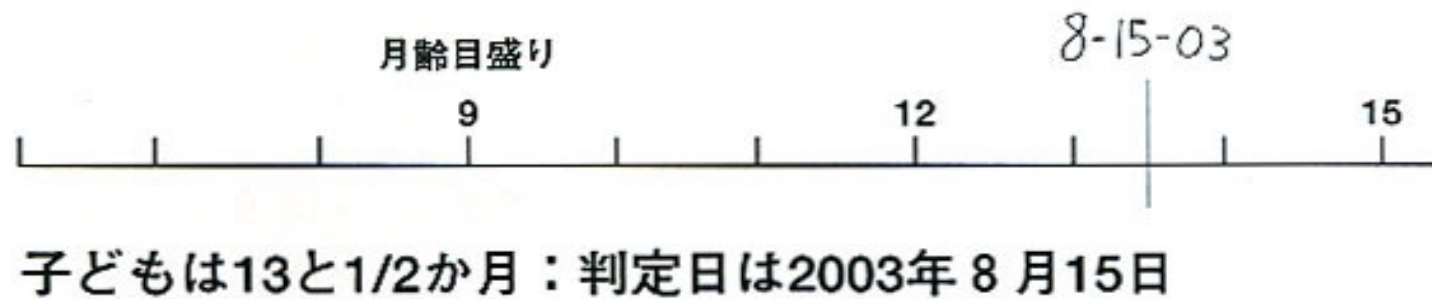
保護者の報告により判定して良い項目

**Rは報告で判定としてもよいことを示す。
注の数字は記録票の裏の説明の番号を示す。**



標準枠の左端に「R」がついている項目のみ、報告により判定して良い。しかし報告の項目であっても、もし可能なら判定者が観察するほうが望ましい。

年月齢線の引き方



判定結果の解釈は、この年月齢線の正確な位置によって行われるので、定規を用いて測り、正確に引く。

判定結果の記録方法

記録

P: 合格 (Pass)

F: 不合格 (Fail)

R: 拒否 (Refusal)

NO: 未経験 (No Opportunity)

標準枠

25～90%の通過率

ブルー

75～90%の通過率

記録は50%値の印の近くに記入する

実施について

- ◎ 子どもが積極的に関与する必要がない項目、子どもにとって楽な項目から始める。

第一段階

- ◎ 各領域で年齢線に**最も近く、完全に年齢線の左にある項目**のうち、少なくとも**3つ**実施する。
- ◎ また、**年齢線と交差する項目も全て**実施する。

第二段階

- ◎ 各領域で合格した項目の右側の項目を実施し、3項目不合格になるまで続ける。

個々の判定項目の判断

(判定全体の判断に、「遅れ」項目は考慮される)



「遅れ」の項目
判定全体の判断に「遅れ」は
考慮される

図 4-6 「したことがない」項目

(判定全体の判断には考慮されない)



「したことがない」項目
判定全体の判断には考慮されない

個々の判定項目の判断

(判定全体の判断には考慮されない)

年月齢線



「進んでいる」項目

ただし、判定には考慮されない

(判定全体の判断には考慮されない)

年月齢線



年月齢線



「正常」な項目

ただし、判定には考慮されない

(判定全体の判断には考慮されない)

年月齢線



年月齢線



年月齢線



「要注意」の項目は要注意

(判定全体の判断に、「要注意」項目は考慮される)



- 年月齢線が75%～90%の間、あるいはその上にある場合に、その項目が不合格あるいは拒否であれば「要注意」と判定する。
- 「要注意」は標準枠の右側に C と書く。

総合的判断

◎ 正常

遅れがひとつもなく、要注意が1項目以下である場合。

◎ 疑い

2つ以上の要注意、および(または)1つ以上の遅れがある場合

◎ 判定不能

年月齢線より完全に左側にある項目、あるいは
75%～90%の間に年月齢線がある項目のうち1つ以上
拒否がある時。

おわりに

- ◎ 国家試験では、例年発達に関する出題があります。
- ◎ DENVERIIの評価表を見ていなければ解けない問題もありました。
- ◎ 実習でも子どもの発達を注意深く観察していこう。